

令和 6 年度 上戸祭小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

＝ 心身ともに健康でたくましく，創造力と実践力に満ちた，心豊かな児童の育成 ＝

—自分や他人を大切にする子ども・進んで学ぶ子ども・たくましく生きる子ども—

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して，学校教育目標に掲げた児童の育成を図る。

合言葉：学ぼう 遊ぼう 友だちと

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童の学力の向上のため，教師の授業力の向上を図る。

(2) 児童にとって居がいのある学級づくりを目指す。

(3) 地域とともにある学校を目指す。

○【星が丘中学校地域学校園教育ビジョン】

未来を見つめ，主体的に生き抜く力の育成
～認め合い，学び合い，高め合う児童生徒を育てる取組を通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 本校の教育目標の実現のために各教科等及び学年間の関連を図り，系統的・発展的な指導を行うとともに，地域や学校の実態，児童の発達段階や特性を考慮し，特色ある教育課程を編成する。

(2) 学校評価の反省を生かし，本年度の経営方針を踏まえ，知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した教育活動の展開を図る。

(3) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて工夫改善を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○ 未来を見つめ，主体的に生き抜く力の育成

(2) 学習指導

・ 「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせる授業の創造

○ 自ら考え，交流し，学びを深められる児童の育成

(3) 児童生徒指導

・ 元気なあいさつと正しい言葉遣いを指導の重点とした，望ましい生活習慣と正しい判断力の育成

○ 互いのよさを認め合い，自己有用感を高め，他人を思いやることのできる児童の育成

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

・ 自らのめあてを明確にし，進んで体力向上に取り組む児童の育成

・ 児童の健康な生活習慣の定着

(5) 教職員の働き方改革

・ 業務の効率化の推進

・ リフレッシュウィークの奨励

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 95%以上	①自分の考えや思いを図や言葉で表現したり、話し合ったりするなど、豊かに表現して学び合う児童を育成する。 ②「学習の決まり」を基本にしながら、相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう、自分の考えを伝える力を育成するとともに、学習の様子や成果について家庭へも積極的に伝えていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.4 % 教職員の肯定的回答 96.6 % 保護者の肯定的回答率 89.2 % ・目標値をほぼ達成することができた。 ・他者と協働しながら、進んで学習に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・「学習の決まり」を基本にしながら、相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう、自分の考えを伝える力を育成する。 ・学年だよりや学級懇談会等で取組について周知する。 ・導入の工夫、学び合いの場を意図的に設定する。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 90%以上	①道徳科の授業の実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を実施する。 ③相手の立場を考えて思いやる心を育めるよう児童会活動や縦割り班活動を計画的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.9 % 教職員の肯定的回答 96.6 % 保護者の肯定的回答率 95.0 % 地域住民の肯定的回答率 93.8 % ・目標値を達成することができた。 ・異学年での活動を実施することができ、特に高学年が下学年に対して思いやりの心をもって協力し合う活動の充実が図れた。 ・道徳教育を要として思いやりの心について考えさせ、よりよい人間関係を育めるような取組をしてきた。 【次年度の方針】 ・縦割り班活動を継続的に取り入れ、異学年交流の中で、相手の立場を考えて思いやる心を育むとともに、常日頃から、児童の親切的行動を称賛したり、紹介したりすることを意識し、よりよい人間関係を育てていくようにする。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。 ②各教科の授業や校内での各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、道徳教材との関連も図り、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.2 % 教職員の肯定的回答 93.1 % 保護者の肯定的回答率 83.5 % ・児童・教職員ともに目標値を上回った。 ・学習カードや検定カード、行事等で目標設定と振り返りを繰り返すことで、目標に向かって努力する意欲が向上した。 【次年度の方針】 ・本年度同様に具体的な取組を実践すると共に、担任が認め励ます指導に努める。また、道徳の教材との関連も図っていく。

1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ②学校給食と各教科等との関連を図り、栄養のバランスのとれた食事と望ましい食習慣の育成を図る。 ③交通安全指導や避難訓練を定期的に行い、自然災害も含め、自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、指導を工夫する。 ④廊下や階段の歩行、校庭での遊び方といった校内だけでなく校外での安全な生活についても児童に意識させるとともに、全職員で指導する。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 94.0% 教職員の肯定的回答 89.7% 保護者の肯定的回答率 92.0% 地域住民の肯定的回答率 100% ・保護者の目標値は達成できたものの、教職員の肯定的回答は目標値をやや下回った。 ・家庭や地域と連携を図りながら、健康や安全への意識を高めた。 ・自分の身の回りの安全への意識が高まり、けがによる保健室の来室が減少した。 【次年度の方針】 ・廊下や階段の歩行といった校内の安全な生活については、教職員の共通理解を図るとともに指導の徹底を目指していく。 ・校内での安全な過ごし方や外での遊び方のほか、登下校時も含めた校外での過ごし方や家庭生活について、今後も家庭や地域と連携を図り、さらに健康や安全への意識を高めていく。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ・児童（生徒）は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 90%以上	①一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、誉めたり言葉掛けを行ったりするとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制を整え、居心地のよい集団作りを目指す。 ②学級の中での当番や係活動、また委員会活動や縦割り班活動等を通して、一人一人が活躍できる場を設定していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.0% 教職員の肯定的回答 96.6% ・児童・保護者・教職員ともに目標値を達成できた。 ・学級での役割を果たしたり達成感を味わったりする経験や教師の言葉掛けで、協力してより良い学級を作ろうとする意識が高まった。 【次年度の方針】 ・本年度同様の取組を継続していく。児童がそれぞれのよさを発揮できる居心地のよい集団づくりと一人一人が活躍できる場の提供に努める。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②簡単な英語表現に繰り返し触れさせる。 ③外国語活動に関する校内研修やALTと事前に綿密な打合せを重ねるなど、指導力の向上を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 84.9% 教職員の肯定的回答 96.6% ・目標値は達成できなかったが、市の平均を上回った。 ・英語を使ったやりとりを重視し、積極的にコミュニケーションを図る機会を設けた。 【次年度の方針】 ・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたり、ALTと協力したりしながら、さらなるコミュニケーション能力の向上を継続的に図る。 ・給食の時間に、英語の曲を流して児童がより英語表現に親しめるようにする。

	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①各教科等の授業や校外学習、家庭学習、食育や学校図書館等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深め、授業以外の場でも児童に伝えられるよう努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 86.4% 教職員の肯定的回答 93.1% 保護者の肯定的回答率 73.6% ・目標値をほぼ達成することができた。 ・さまざまな教科において、身近な地域や宇都宮市を調べたり、特徴に触れたりすることを通して、宇都宮市の良さに気付くことができた。 【次年度の方針】 ・授業で身近な地域の学習を行う際には、宇都宮の良さについても意図的に触れるようにする。 ・さまざまな学習内容に関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮の良さに気付くとともに、自ら発信する機会を設ける。 ・職員研修の機会を設けるなどして、職員も学びを広げ、指導に役立てる。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者・教職員 85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にデジタル機器を活用する。 ②図書館司書と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③1人1台端末を活用した学習や、端末の正しい使い方等についての指導にも家庭と連携して取り組んでいく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 92.7% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答率 85.2% ・目標値をほぼ達成することができた。 ・職員研修の機会を設けることで、デジタル機器を効果的に活用することができた。 【次年度の方針】 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮し、教育図書の有効活用に引き続き務めていく。 ・ICT機器や図書の活用について、に位置付け、系統的かつ効果的に活用できるようにする。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①社会科や総合的な学習の時間等において「持続可能な社会」について考えさせ、環境問題への関心を高め、資源を大切に、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②豪雨による水害や東日本大震災などの過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。 ③職員研修の機会を設けるなどして、職員の意識や理解を深めていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 93.1% 教職員の肯定的回答 86.2% ・目標値を達成することができた。 ・SDGsを教科横断的に取り扱うことで、環境問題への意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・「持続可能な社会」について考える機会を、社会科や総合的な学習の時間を中心に取り入れ、環境問題への関心を高める。 ・職員研修の機会に、職員の理解や意識を高めたり、学校生活の中で節電・節水・ペーパーレスなどに努めたりする。

3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒ 教職員 90%以上	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・目標値を達成することができた。 ・職員会議の都度、配慮の必要な児童の情報共有を行ったり、教育支援委員会やケース会議を適宜設けたりし、全教職員の共通理解の下、家庭との連携を図りながらきめ細やかな指導を心掛けることができた。 【次年度の方針】 ・今後も校内での支援体制を整え、児童の実態に応じて特別支援学級への編入や、かがやきルームの利用などを検討していく。また、必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関との連携を図るなど適切な指導・支援を全校体制で行っていく。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	①学級活動、道徳科の授業を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ②児童会主体の「いじめゼロ運動」の推進に努める。 ③定期的なアンケートやQ-U検査の結果、教育相談等から、児童を共感的に理解した上で、組織的な対応によりいじめの早期発見・早期解決を図る。 ④学年だよりや学校ホームページに道徳や学級活動で学習したことや、児童の様子などを掲載し引き続き情報を発信していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 98.5% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答率 78.8% 地域住民の肯定的回答率 100% ・学級活動、道徳科の授業を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、児童会主体の「いじめゼロ運動」を充実させてきた。 ・いじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活が送れるように、指導にあたった。 【次年度の方針】 ・いじめに関するアンケートや教育相談の活用を継続し、いじめに関わる事実の把握に努める。また、いじめゼロ運動などの機会を生かして、いじめは許されない行為であることを継続して指導していく。 ・HP や学年だより等で取組について積極的に情報を発信し、保護者への啓発を図っていく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う機会をつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。 ②教育相談、アンケート、Q-U 調査、SC との教育相談などの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見、不登校の兆候や傾向の児童に関わる校内全体の情報共有を図る。 ③職員会議で定期的かつ効果的に児童の情報交換を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.2% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答率 91.0% ・目標値を達成することができた。 ・日常生活や学習場面の中で、自己有用感を感じられるような活動を意識した。 ・温かな言葉かけを意識したり教育相談を活用したりし、行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、職員間で情報共有をしたり、スクールカウンセラーへの相談を勧めたりした。 【次年度の方針】 ・教師が中心となり、児童同士が認め合えるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また、学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。 ・行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催しスクールカウンセラーや関係機関につないだりするなど支援していく。
3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	①日常的に児童の様子を細かく見取り、一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めると共に、いつでも悩みを相談できる人間関係を構築する。 ②教育相談の場を有効に活用し、さらに児童に寄り添った支援を心掛けていく。 ③職員間で情報交換を密にし、児童のよさを共有し、伸ばす積極的な児童指導に努める。 ④学級や学年、児童会等でイベントを企画・実践し、児童が主体となって活躍したり、目標を達成に向けて協力したりすることで、学校生活の活性化につなげる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.6% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答率 89.1% 地域住民の肯定的回答率 100% ・児童の目標値は達成できたものの、保護者の肯定的回答は目標値を下回った。 ・日常的に児童の人間関係等を把握したり、様々な機会を捉えて児童が楽しいと感じる活動や委員会活動などの児童主体の取組をしたりすることで、生き生きとした学校生活を送ることができた。 【次年度の方針】 ・教育相談や児童が主体となって活躍するイベントなどについて、保護者に対して学年だよりや学校 HP で発信する機会を増やしていく。
3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合う授業を展開する。 ②教師は授業の中でねらいを明確にし、友達の考えと自分の考えを比較してさらに学びを深める活動や、個別最適な支援を継続していくことで、全体的な学力向上を図る。 ③児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を行う。 ④教職員同士の情報交換を密にすることで、教材研究や学習指導に生かしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.6% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答率 83.6% ・目標値を達成した。 ・個に応じた支援を行うことで、学力の向上を図ることができた。 【次年度の方針】 ・きめ細やかな学習指導を行うために、教職員の情報のやりとりを密にすることで、学年や学級のつながりを深め、教材研究に生かす。 ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、指導力のさらなる向上を図る。 ・児童の実態に合わせ、個に応じた支援を継続していく。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①「チーム上戸」の合言葉のもと、校内における良好な人間関係の醸成を図ることで、より一層の風通しの良い雰囲気づくりに努める。 ②校内のOJTをさらに進め、教職員の専門性や「1授業グループ」での研修成果を生かした取組を推進するなど、チームとしての協働性を高め、教職員の資質向上を目指していく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.6% ・目標値を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今後も気軽に情報交換したり、相談したりできる、風通しの良い教職員チーム作りに努める ・若手教員へのOJTを継続して進め、教職員全体の資質向上とチームとしての協働性を高めていく。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①教職員の負担軽減に向け学校の組織運営の改善や、各種行事等の精選を行う。感染症対策に関しては、過剰になりすぎることなく臨機応変に対応し、負担軽減を心掛ける。 ②1人1台端末の効果的な利用についてICT支援員と連携を取りながら他校の情報も共有し学び合う機会を設け、業務の効率化につなげていく。 ③「リフレッシュウィーク」への意識を高めることで、勤務時間を意識した業務の効率化や計画的な処理を進められるようにする。特に、リフレッシュデーやその日の退勤予定時刻を学年ごとに明示し、意識付けできるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 93.1% ・目標値を達成することができた。 ・日直業務の見直し等により、僅かではあるが、放課後の学年会や教材研究の時間を生み出すことができた。 【次年度の方針】 ・学校・学年行事の精選と内容の工夫を継続していく。 ・引き続きリフレッシュウィーク・リフレッシュデーを推進するとともに、それ以外にも定時(16:40)退勤できる日を増やしていくようにする。 ・1人1台端末の効果的な利用による授業の工夫改善とICTを活用した業務の効率化をさらに推進する。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①星が丘地域学校園ビジョンに基づき、中学校との連携を保ち、あいさつ運動や乗り入れ授業を、目的を明確にして効果的に実施する。 ②地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。 ③地域学校園の取組の様子について、学校HP等に掲載の際は「地域学校園の取組」であることを明確化し、保護者への周知を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.6% 教職員の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答率 80.2% 地域住民の肯定的回答率 93.3% ・教職員は目標値を達成したが、保護者は目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・今後も地域学校園で連携しながら活動を継続していくとともに、児童をはじめ地域や保護者にも学校園としての活動・取組であることを明確にして啓発を図っていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	①地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材や施設等の教育力を生かした学習を可能な範囲で実施していく。 ②7月、2月の授業参観を「オープンスクール」とし、広く地域に周知し、学校の教育活動への理解を深められるようにする。 ③「感謝の会」や「ふれあい祭り」の内容を再検討したり家庭や地域社会との連携による教育活動を実施したりすることで、よりよい生活習慣の育成や効果的な学習活動の展開を目指す。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.7% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答率 88.8% 地域住民の肯定的回答率 100% ・保護者・地域住民ともに目標値を達成した。 ・7月、12月、2月オープンスクール、ふれあい祭り、地域の方による講話など、地域と連携・交流を図ることができた。 【次年度の方針】 ・引き続き地域協議会、地域コーディネーターと連携を図りながら「感謝の会」「ふれあい祭り」など地域・保護者と連携した行事を工夫しながら実施していく。 ・生活科や総合的な学習の時間の学習を中心に、地域人材や施設など地域の教育力を生かした学習活動を取り入れていく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%・保護者 90%地域住民 90%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、様々な状況を想定した避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③感染症予防対策、熱中症対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、年間を通して保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答率 89.7% 地域住民の肯定的回答率 100% ・教職員・地域住民は目標値を達成したが、保護者は僅かに下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き校舎内外の安全点検を定期的に行い、迅速な対応に努める。 ・危機管理マニュアルや安全計画のもと、より実践的な避難訓練を行うことで、不測の事態に備える。 ・避難訓練、交通安全教室等の行事をはじめ、学校生活や登下校の場面で安全な行動、自分の身を守る行動について継続的に指導する。

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピューターなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 95%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②1人1台端末を活用した学習を、家庭と連携して取り組んでいく。 ③文書管理やアンケート処理など、日常的にデジタル機器を進んで活用し、業務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・目標値を達成することができた。 ・授業において、積極的に1人1台端末を活用することができた。 【次年度の方針】 ・1人1台端末などのデジタル機器の基本的な使い方を継続的に研修していくことで、学習指導に生かしていく。 ・ICT支援員との連携を密に行うことで、学習指導や業務の効率化に生かしていく。 ・学校ホームページやさくら連絡網を有効活用し、学校情報のデジタル化に努める。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童 90%以上・地域住民 80%以上	①年間を通して地域や地域学校園と連携して児童が中心となって工夫したあいさつ運動を展開するとともに、登下校や上戸タイム、朝の会、帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導を行う。 ②「見守りボランティア」を中心に、地域の方へも自ら進んであいさつすることや、時と場に応じた言葉遣いについて指導し、地域住民や保護者にも協力を呼び掛ける。 ③日々の生活の中で教職員も進んであいさつを行い、児童のあいさつに対する意識を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.3% 教職員の肯定的回答 82.8% 保護者の肯定的回答率 81.9% 地域住民の肯定的回答率 76.5% ・マナーアップ委員会を中心に積極的にあいさつ運動に取り組んだり、毎月の生活目標にあいさつに関する目標を設定したりするなどあいさつへの意識を高められるよう努めた。 【次年度の方針】 ・児童が中心となったあいさつ運動を継続・展開したり、地域学校園で共通する目標を設定し、小中一貫「あいさつ運動」を行ったりしながら児童の意識を高める。 ・教職員も率先してあいさつをするとともに、地域の方々への感謝の気持ちを持てるよう働きかけ、あいさつにつながるようにする。
	B2 児童は、決まりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、決まりやマナーを守って、生活をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①「かみとよい子のやくそく」に基づく全校共通理解のもとで、基本的な生活習慣と正しい判断力の育成に努める。 ②決まりやマナーを守って行動していることを児童が相互に認めあう場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。 ③生活目標に決まりやマナーに関する目標を掲げ、休み時間に巡視や指導を行うことで、児童の意識化を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.5% 教職員の肯定的回答 89.7% 保護者の肯定的回答率 90.4% 地域住民の肯定的回答率 88.2% ・決まりやマナーに関する生活目標を、児童の実態に合わせて設定し、重点的に指導し、望ましい行動習慣についての呼びかけを行った。 【次年度の方針】 ・児童会が中心となって、決まりやマナーについて発信を行い、さらに児童の意識の向上を図っていく。 ・「生活目標」について、児童が目標を守って生活しようとする意識が高まるように、放送で呼びかけたり振り返りの機会を設けたりする。

B3 児童は、積極的に遊びや運動を楽しんでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は進んで遊びや運動を楽しんでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上		①体育の時間にがんばりカードを活用することで運動への意欲を高め、運動の楽しさを味わわせるとともに、体育の時間や学級活動で行う運動や遊びが日常の外遊びにつながるように工夫する。 ②体力テストの結果等を分析し、本校の実態に応じた体力向上につながる運動や遊びを、体育委員会の活動と関連付けて紹介し、楽しみながら運動能力の向上を図れるように工夫する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.5% 教職員の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答率 96.0% 地域住民の肯定的回答率 100% ・児童・保護者ともに目標値を上回った。 ・体育の時間や学級活動で行う運動や遊びを工夫したことにより、日常の遊びにつながり、児童は意欲的に運動に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・今後も左記の具体的な取組を継続して実践する。
B4 学校は保護者と連携して家庭学習を進めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日宿題などの家庭学習に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員・保護者 90%以上		①「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。 ②「家庭学習の記録」やノートによく目を通し、一人一人の学習状況をICTも活用して把握し、内容に応じて個別指導を行う。また頑張りを可視化して認め励ますことで意欲づけを図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.2% 教職員の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答率 94.9% ・目標値を達成することができた。 ・家庭と連携して、家庭学習に取り組ませることができた。 【次年度の方針】 ・具体的な家庭学習の取り組み方、進め方について効果的な方法を児童に示し、継続して取り組めるようにする。 ・発達段階に応じた家庭学習の方法について示し、児童が自ら学習に取り組める環境を整える。 ・引き続き家庭学習の仕方について、教師間の共通理解を図り、家庭学習のさらなる充実に努める。
B5 学校は家庭と連携して読書活動を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は家庭と連携して読書活動を行っている」 における肯定的回答 ⇒教職員 95%・保護者 85%以上		①地域学校園推薦図書（スター文庫）の設定・推奨、今月のお勧め図書の展示、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進する。 ②毎月第3日曜日を家庭読書の日とし、「読書イベント」を継続して行い、家庭の理解と協力を呼びかけながら、家庭を含めた読書活動の充実を図る。 ③「自分のおすすめの本」というテーマで、学期ごとに読書郵便として紹介文を書き、保護者に知らせる活動を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 83.8% 教職員の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答率 87.0% ・教職員・保護者ともに目標値を達成することができた 【次年度の方針】 ・毎月の家庭読書や年2回の読書郵便など、親子で図書に触れあう機会を設けて協力を呼び掛けつつ、負担が大きくならないように配慮しながら活動を継続していく。 ・引き続き、地域学校園での図書紹介や啓発活動を行う。

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

・A15「教職員の協力」の項目では、職員の肯定的回答率は目標値を上回った。またA16「業務の効率化」の項目では職員間の肯定回答率は93%を超え、昨年度を6ポイント上回った。今後も気軽に情報交換したり、相談したりできる、風通しの良い教職員チーム作りに努める。また、新たに取り入れてきた「業務の効率化」「時短意識の向上」への取組を継続して進めていく。

○A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」については、教職員の目標値は達成したものの、保護者の肯定的回答率は目標値を下回った。コロナ禍で制限されていた地域学校園としての行事等の持ち方を再考し、広く伝達するとともに、「乗入れ授業」や「あいさつ運動」といった活動の様子についても、各種たよりやHP等を通じて繰り返し発信し、「地域学校園の催し」であることを強調していくことが必要である。

・A18「家庭・地域・企業等との連携」の項目では、すべての評価者において肯定的回答率が目標値を上回った。年3回のオープンスクール、ふれあい祭り、地域の方による講話、カルビー工場のリモート見学など、地域・企業と連携・交流を図るこ

とができた成果と思われる。今後も地域協議会、地域コーディネーター等と連携を図りながら「感謝の会」「ふれあい祭り」などの行事を工夫しながら実施するとともに、地域人材や施設など地域の教育力を生かした学習活動を取り入れていく。

○B5「読書活動の推進」の項目では昨年度同様、教職員、保護者とも目標値を上回った。委員会活動を中心とした各種イベントの活性化や、「家庭読書の日」「おうち de 読書」等による家庭読書の推奨への継続的な取組の結果と考える。引き続き、地域学校園での図書紹介や「図書だより」の発行等の啓発活動を行うとともに、毎月の「家庭読書の日」の設定や年2回の「読書郵便」など、負担にならないよう配慮しながら親子で図書に触れあう機会を設けて協力を呼び掛けていきたい。

《学習指導面》

・A6「英語を使ったコミュニケーション」については、目標値は達成できなかったものの、市の平均は上回っている。さらなるコミュニケーション能力の向上を目指し、ALTや教師との英語でのやり取りをより日常化していく。

・A7「宇都宮のよさ」の項目では、わずかに市の平均を下回った。授業において「宇都宮のよさ」について触れる機会を意図的に増やしていくとともに、職員自身の学びを深めるための研修も企画していきたい。A9「持続可能な社会」の項目では、すべての評価者において肯定的回答率の目標値を上回り、市の平均も大きく上回っている。社会科や総合的な学習の時間を中心に今後も「持続可能な社会」への取組に対する意欲を高める指導を展開していく。

・A8「デジタル機器・図書の活用」の項目では、児童、保護者、教職員ともに目標値を上回った。昨年度から力を入れている研修による教職員のスキルアップを図った取組が、1人1台端末を中心としたICT機器の活用を日常的にしてきたと考えられ、児童一人一人のデジタルスキルもさらに向上している。ICT機器の活用や司書教諭と連携した教育図書の活用も今後も継続していけるよう、それぞれを年間指導計画に位置付け、系統的・効果的に指導できるようにする。

○A14「分かる授業と児童指導」についての児童の肯定的回答率は昨年と同じ97.6%と非常に高い水準を保った。「個に応じたきめ細かな支援」を意識した計画的・組織的な校内研修による授業力向上の取組の成果と考える。次年度も引き続き「上戸小授業モデル」を活用し、「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせる授業づくりを目指すとともに、教職員間の情報交換をさらに密にし、教材研究や児童指導に生かしていきたい。

《児童指導面》

○A2「思いやりの心」の項目では、児童、教職員共に目標値・市の平均の双方を上回った。道徳教育や異学年交流を要とした「相手を思いやる心」の育成や、日常的・継続的な学級での取組の成果と思われる。今後も児童の適切な行動への称賛や全体への紹介を続け、よりよい人間関係を構築していけるよう支援していく。

○A12「不登校対策」の項目では、児童、保護者の肯定的回答率がいずれも目標値・市の平均を上回った。日常的に児童の自己有用感を高められるような活動を意識して取り入れ、行き渋りなどの兆候が表れたときには保護者との連絡を密にし、状況によってスクールカウンセラーへつなげるといった適切な対応を心掛けてきたことが、一定の評価を得られたものと考えられる。

○B1「あいさつ」の項目では、児童の肯定的回答率は高いものの、保護者・地域住民はいずれも目標値を下回った。児童と保護者・地域住民等との間に意識の差が生じている。委員会を中心としたあいさつ運動の取組等により、児童一人一人の意識の高まりは感じられるので、今後は「相手に伝わるあいさつ」といった観点での指導に注力し、校外でもその成果を生かせるよう働きかけていく。

○B2「決まりやマナー」の項目では、教職員、保護者ともにほぼ目標値を達成できたが、昨年度に比べ教職員の肯定的回答率が7.1ポイント降下した。児童の規範意識の低下が原因と思われるので、実態に合わせて「生活目標」を設定し、まずは校内で「決まりやマナー」に関する意識の向上を図る必要がある。児童会が中心となって発信するほか、教職員が率先垂範の姿勢をさらに強め、全体の規範意識を高めていきたい。

《健康・体力面》

・A4「児童の健康や安全」の項目では、教職員の肯定的回答率が目標値をわずかに下回った。廊下や階段の正しい歩行といった基本的な生活習慣の定着が不十分であったと思われる。今後も教職員間の共通理解のもと日常的な指導を徹底し、家庭や地域とも協力・連携し、児童にとって安全・安心な学校生活が維持できるよう、健康・安全両面からの対策の徹底に取り組んでいきたい。

○B3「積極的な運動」の項目では、評価対象者すべてにおいて目標値を大きく上回った。体育の授業時における個に応じた場の設定の工夫や、学級活動でのクラス遊びの工夫といった取組により、多くの児童が運動する機会に触れ、楽しんでいる様子がうかがえる。新体力テストの結果等を分析し、本校児童の実態に応じた体力向上へとつながる運動や遊びを、児童会活動と関連付けて充実を図り、今後も楽しみながら運動能力の向上を図れるよう工夫していきたい。

7 学校関係者評価

- ・インフルエンザ等各種感染症が引き続き予断を許さない状況の中、校長先生はじめ先生方には各種行事の再開等を通じ、通って楽しい、活気ある学校づくりにご尽力いただいております、感謝申し上げます。
- ・全体アンケートの肯定的回答の割合は、市平均を概ね上回っており、学校や地域住民などのこれまでの取組の成果の表れであると評価できる。各項目については、「学校評価書」記載の「次年度の方針」の通りに進めていくことで、より良い成果が期待できると考えられる。
- ・A1, A11～14のように、児童と教師の肯定的回答率にあまり差のないものや、B3, B4のようにほぼ同程度になっている項目に関しては納得できるが、10ポイント以上の差がつく項目に関しては、児童がどのように認識しているのかが気になる。
- ・昨年度も話題となっていたが、「あいさつ」については、「あいさつ」の必要性などを児童の規範意識を高める指導のなかで話をしつつ、質問項目にあるように「時と場に応じた」としていることから、誰に・いつ・どのような場所で・どのようになど、具体的に事例を示すことで、より肯定的回答の割合を上げることが期待されるのではないかと。ただ令和6年度の「あいさつ」に関する「地域住民の肯定的回答」は、令和5年度と比較すると、5ポイント以上上回っており、今後とも「主な具体的な取組」を進めることで、目標達成につながることを期待したい。
- ・B1「あいさつ」については児童と教職員の認識に大きな差が生じている。教職員や地域住民は、あいさつが「言葉」として返ってくるのを期待しているようだが、恥ずかしそうに首をかしげるような児童もあり、そうした状態が「あいさつをしている」部類に入れられていないと思われる。
- ・中には声を出すのが苦手な児童もあり、(あいさつをさせるために)強制力が働くと逆効果になることも有り得る。あいさつが必要な理由やあいさつの「いいこと」などの説明を含む、年齢に合わせた地道な指導を続けていただければと思う。しかし大人からの声掛けは児童の心には届いていると思われるので、地域でも声掛けを続けていければと思う。地域住民が児童たちのことをもっと知り、仲良くなるのが大切である。
- ・あいさつについては相対的に評価が低く、地域協議会でも話題となったが、校内でのあいさつはよくできていると思われる。地域住民からの評価が低いことから、「校外でどうすればよいのか」が具体的にわかりにくいのかもしれない。行動例を具体的・段階的に示し、「入門者：学校の外でも、地域の人に心の中であいさつ。初心者：地域で知っている人に、頭を下げてあいさつ。中級者：地域で知っている人に、こんにちはと声でもあいさつ。あいさつマスター：地域のたくさんの人に、こんにちはと声であいさつ」のようにすることで努力や習慣づけを促す方法も考えられる。
- ・あいさつに関しては、家庭環境も大きい。親の教育も含め、地域全体で取り組んでいかなくてはならない。あいさつが飛び交う地域には犯罪者も入りにくいので、大人も子供も大きな声であいさつを交わしていきたい。
- ・「あいさつはなぜ必要か」という問いに対する答えを大人がしっかり持ったうえでの指導が効果的なのでは？安全を確保するという意味もあることを認識させたい。(山ではすれ違う時に必ずあいさつをして安全を確保する)
- ・A5「自分のよさや成長」(の児童の肯定的回答率)が100%になるのを願っている。
- ・登下校の際、児童の見守りをしていると、横断歩道に児童が待っているのにも関わらず、止まってくれない車がある。特に朝はほぼ止まらない。信号の設置や道路の整備等も含め、地域としても行政に要望していきたい。
- ・今後とも、学校経営の方針(3)「地域とともにある学校を目指す」の実現を図るため、地域協議会の取り組みに協力させていただきたい。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校関係者の意見にもあるように、児童のアンケートの結果、ほとんどの項目で肯定的回答率が市の平均を上回っていることから、学校・保護者・地域が連携した教育活動が効果を上げていると考えられる。今後もさらに連携を深めるために、学校だより、学年だより、ホームページの充実等による家庭や地域への積極的な情報発信を心掛けていく。
 - ・対象者によって肯定的回答率が大きく異なる項目に関しては、それぞれの立場による認識の違いについて、さらに細かい分析・考察が必要である。そのうえでそれぞれの思いを理解し合い、肯定感を高めるための手立てが必要となってくるであろう。次年度以降の課題である。
- 児童の肯定的回答率が低下している項目については、「Q U」や「学校生活アンケート」等の各種調査結果や、日常的な教師の見取りをもとにした児童の実態把握を強化することで、良い方向へ向かっていくと思われる。気になる児童個人に対する対応や取組が適切であったかを定期的に振り返ることで、個別最適な指導となるよう今後も工夫していく。
- 今後も「あいさつ」を中心とした、児童の規範意識の向上に努める。具体的には「校内あいさつ運動」のさらなる強化と充実、また「小中合同あいさつ運動」の効果的な活用と啓発等が挙げられるが、「あいさつがなぜ大切なのか」といった、教職員や地域住民、保護者等、「大人の立場からの思い」を児童の心に訴える指導にも力を入れていかなくてはならない。そのうえで、発達段階や児童の実態に合わせた「具体的な指導」「行動例」を段階的に示していくといった方法も検討していく。そうした試みの継続により、一人一人の意識を高めていくことで、校外でも自分からあいさつをしようとする態度を育成し

ていけると思われる。保護者・地域住民とも協力しながら、引き続き対象を広げたあいさつの習慣化を図っていききたい。

○多くの児童数を有する中で、数値として「100%の肯定的回答率」を記録するのは現実的ではないが、「100%を目指す意識」は持ち続けなくてはならない。担任を中心とした日常的な「児童のよさを認め、伸ばす積極的な児童指導」が何より大切である。それに加え、一人一人が活躍できる場を学年や学校単位でも意識して設定するなど、児童が学校や学級に対しての「居がい感」を高め、さらに充実した学校生活を送ることができるような取組を充実させていきたい。

○児童が安全に登下校できる環境を整えることは最も重要である。今後も「交通指導員」や「見守り隊」を中心に、地域住民や保護者とも連携を深め、情報交換しながら児童の安全を第一に考えた対策を講じていく。